

日本の EBM 揺籃期を総括する

河合富士美

聖路加国際病院医学図書館

1. はじめに

1991年に EBM が提唱され、日本で最初のワークショップが開催されたのが 1997 年であるから国内で啓蒙活動が始まっておよそ 8 年になる。医学界を遷延し、ブームとも言える状況は昨年頃から沈静化しつつあるように感じている。しかし、それは決して終息ではなく、定着への移行と考えている。だが図書館の中ではまだ EBM が業務に定着したとはいえない。そこで EBM の啓蒙が盛んに行われたこれまでの流れを振り返るとともに今後図書館員がいかに関与し、EBM と取り組んでいくかをあらためて考えてみたい。

2. EBM の歴史を振り返る

EBM の誕生、概要、医学界への影響について図書館員の視点で概観する。また、EBM と図書館に関連する国内文献を展望する。

3. 図書館員の教育プログラムを振り返る

厚生労働省科学研究費による「リサーチライブラリアンワークショップ」を中心に図書館員向けに行われてきた教育プログラムについて振り返る。また一例として聖路加国際病院でおこなわれている教育プログラムを紹介する。

4. 図書館員が取り組んできた EBM 支援の実践例

これまで日本の図書館員が取り組んできた EBM を支援する実践例として、J-RCT によるハンドサーチプロジェクト、厚生科学研究費による EBM 診療ガイドライン作成への参加、日本医療機能評価機構による MINDS 医療情報サービスなどを紹介する。

5. 今後の EBM と図書館員

欧米では EBM の提唱・実践が契機となり EBM を支援する専門職として“Informationist”が誕生し、その教育プログラムや実践例が報告されている。だが現在日本では EBM を理解するための初歩的な教育プログラムを継続的に行う体制も確立していない。これまで教育プログラムを受けた、また実践に参加している図書館員はまだ一部に過ぎない。しかし、EBM を難しいもの、高い位置にあるものとせず、情報を正しく読む、情報の質を評価する技法として捉え、取り組んでみてはどうだろう。それは情報の専門家である図書館員にとって基盤となる力となり、特に今後ますます盛んになるであろう患者や市民への情報提供にあたっては必須の知識となると考える。

参考ホームページ一覧

JHES 日本ハンドサーチ・エレクトロニックサーチ研究会 <http://jhes.umin.ac.jp/index.html>

MINDS 医学情報サービス <http://minds.jcqh.or.jp/to/index.aspx>

LITERIS EBM&N Tutorial <http://quilt.slcn.ac.jp/library/ebm/index.html>